



Seiji Togo Memorial
Sampo Japan Nipponkoa
Museum of Art

News Release

Tomoko Hashimoto
川城 夏未

Miyuki Yokomizo
木村 佳代子

Yukiko Hori
橋本トモコ

Kayoko Kimura
堀 由樹子

Natsumi Kawashiro
横溝 美由紀

★
クインテットⅢ
Quintet III Five-Star Artists
五つ星の
作家たち

2017.1/14(sat.) - 2/19(sun.)
【休館日】月曜日
【開館時間】午前10時-午後6時 *入館は午後5時30分まで
【料金】一般600円(500円) 大学・高校生400円(300円) 中学生以下無料 *()内は20名以上の団体料金
【主催】東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 朝日新聞社
【協賛】損保ジャパン日本興亜 SHISEIDO

東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 03-5777-8600(ハローダイヤル)

東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館

クインテットⅢ－五つ星の作家たち

QuintetⅢ： Five-Star Artists

開催のご案内

このたび東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館は、国内外の美術館企画展などで作品を発表している中堅作家5人を選び、「クインテット」（五重奏）と題するシリーズ展覧会を開催いたします。

過去2回は、「風景」をテーマとする技法の異なる作品により、作品同士が反響し合うハーモニーが感じられ、数多くの観衆を魅了いたしました。

第3弾「クインテットⅢ」では、川城夏未、木村佳代子、橋本トモコ、堀由樹子、横溝美由紀の近作・新作約70点をご紹介します。彼女らは、美術大学卒業後の20余年間、当館で開催された『選抜奨励展』『FACE展』『DOMANI・明日展』や上野の森美術館の『VOCA展』などで作品を発表し、強い信念のもと作家活動を継続し、独自の画風（世界）を築いています。

本展テーマは「自然」です。5人の作家たちは、憧憬の念と共に「自然」を見つめ、取り囲む環境を手掛かりに制作しています。それらは写実的というよりも、日常接する「自然」に自らの記憶や思考を重ね、個性豊かに形象化された作品です。見る者の心に響く感動をもたらす、出品作家たちに共通する感性の輝きがあります。

私たちと同時代に制作された5人の絵画の前に佇むことで、私たちの心に奏でられる各々の五重奏は、爽やかな「残響」としてしばらく留まることでしょう。

開催要項

【会 期】2017年1月14日(土)－2月19日(日)

【休 館 日】月曜日

【開館時間】午前10時－午後6時（入館は午後5時30分まで）

【観 覧 料】一般：600円、大高生：400円、中学生以下無料 ※20名以上の団体は各100円引き

【主 催】東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、朝日新聞社

【協 賛】損保ジャパン日本興亜、資生堂

アーティスト・トーク（各作家30分）

1月14日（土）14：00～ 橋本トモコ、堀由樹子、横溝美由紀

1月21日（土）14：00～ 川城夏未、木村佳代子

● 出品作家紹介

川城 夏未(かわしろ なつみ)



1968年神奈川県茅ヶ崎市生まれ。1992年女子美術大学洋画科卒業、卒業制作賞受賞。1995年東京藝術大学大学院洋画修士課程修了、修了制作賞上。1996年～個展(0ギャラリー)、2000年神奈川県美術展大賞受賞、神奈川県民ホールギャラリーにて個展。2001年『TAMAVIVAN2001』(多摩美術大学)出品、関口芸術基金賞展優秀賞受賞。2003年第12回吉原治良美術コンクール展入選。2010年『Toyota Art Competition2010』(豊田市美術館)入選。2015年FACE2015入選。



川城夏未《あまつぶもって行って》2014年

162x194cm 油彩・キャンバス

2010年頃から、画面に植物文様が描かれるようになる。大作は画面に台形、菱形などのやや明るめのフィールドを作り、その中に植物的な柄が描かれている。それは密やかな佇みであり、目を凝らしてゆっくりと画面と対峙することで現出する陽炎のようである。

木村 佳代子(きむら かよこ)



1971年東京都生まれ。1994年東京藝術大学油画専攻卒業、0氏賞受賞。1995年～個展(村松画廊、ギャラリーQ、ギャラリークローゼット、日本橋三越など)。1999年東京藝術大学博士課程満期退学、野村賞受賞。1996年『リュブリアーナ・ビエンナーレ』(スロベニア)出品。1998年『PLIX WHANKI』(WHANKI Museum・ソウル)出品。2014年増上寺現代コレクション第三位。2015年FACE2015入選、香港・台北アートフェア出品。パブリック・コレクション：大和銀行、東京藝術大学大学美術館、増上寺現代コレクションなど。



木村佳代子《Birth》2014年

162x130.3cm 油彩・キャンバス

木村は2011年から新たなシリーズ作品を開始した。木製パネルに和紙を貼り、その上に鉛筆とアクリルでユリ、薔薇、ダリア、チューリップ、蓮などの花を大きく捉え、そこに「生命」の象徴や、「時空」の広がり、「宇宙」への回帰などのテーマを表象している。

橋本 トモコ(はしもと ともこ)



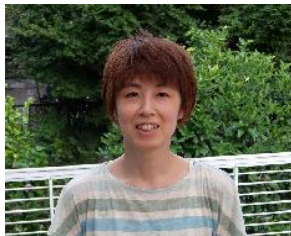
1969年千葉県船橋市生まれ。1996年多摩美術大学大学院修了。2002年第17回ホルベイン・スカラシップ奨学生。2003年第6回資生堂ADSP選出、『ガリバー美術探検記』（北海道立近代美術館）出品。2005年『物語が生まれる所』（船橋市民ギャラリー）出品。2006年『第25回損保ジャパン美術財団選抜奨励展』出品。2007年『第7回前田寛治大賞展』出品。2009年『VOCA展2009』出品。2014年『ワンダフルワールド』（東京都現代美術館）出品。パブリック・コレクション：東京都現代美術館、自治医科大学付属病院、東京通信病院、公立昭和病院、京葉銀行、東急不動産など。



橋本トモコ《明日の幻想—オシロイバナ》2016年
145.5x145.5cm 油彩・白亜地・綿布・パネル

橋本の作品は平面的に見えても深みを伴っている。木製パネルの上に綿布を張り、白亜地で下地を整え、時間をかけて透明度の高い絵具を何層にも重ねることで「深みある艶」と「堅牢な絵肌」を生み出している。

堀 由樹子(ほり ゆきこ)



1971年東京都生まれ。1994年東京造形大学絵画専攻卒業。1995年東京造形大学研修生修了。1995年～個展開催（なびす画廊、ギャラリー山口、ギャラリー千空間など）。1998、99年『昭和シェル現代美術賞展』入選。2000年第15回ホルベインスカラシップ奨学生。2001年『Chiba Art Now 2001』（佐倉市立美術館）出品。2002年第13回関口芸術基金賞展優秀賞受賞。2003年第7回資生堂ADSP選出。2008年『VOCA展2008』出品。パブリック・コレクション：町田市立国際版画美術館、大阪府、足利赤十字病院など。



堀由樹子《森の午後》2016年
116.7x91cm 油彩・キャンバス

堀の画面の中では、暖色と寒色が混在する自由な筆致によって、普遍的な「山」のイメージへと昇華されている。潔いストローク、色彩の乱舞、規則的な配列のリズム感、画面から伝わるのは、描く者と見る者とに共振する「生きる喜び」であろう。

横溝 美由紀(よこみぞ みゆき)



1968年東京都生まれ。1994年多摩美術大学彫刻科卒業。1998年個展（水戸芸術館）。2000年『プラスチックの時代』（埼玉県立近代美術館）出品。2001年文化庁在外研修（ニューヨーク）。2002年『傾く小屋』（東京都現代美術館）出品。2003年『盗まれた自然』（川村記念美術館）出品。2005年国際芸術研究センター第1期研究員。2006年～『未来への回路』出品（パリ日本文化会館から世界巡回中）。2006年『DOMANI・明日展』出品。2013年FACE2013入選。パブリック・コレクション：ザ・リッツカールトン京都、パレスホテル東京、関西医科大学付属枚方病院など。



横溝美由紀《Weave Words》2012年

162x162cm 油彩・キャンバス

キャンバス上に油彩絵具をつけた糸を張り、指で弾くことで痕跡を付けていく技法で制作している。「微かな記憶をたよりに存在を探りカタチを織る」と語る横溝にとって、時間の経緯を織り込み、作家の心境を編み込む個性溢れる作品である。

● 展覧会図録

東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館発行、A4形 100頁、1500円（税込）

「『クインテットⅢ』出品作家たちの自然観」（五十嵐卓）

「『クインテットⅢ』座談会」（川城夏未、木村佳代子、橋本トモコ、堀由樹子、横溝美由紀）

「昨今の女性作家の使命と期待」（藤田一人）

作家エッセイ（川城夏未、木村佳代子、橋本トモコ、堀由樹子、横溝美由紀）

—本件に関するお問合せ先—

【「クインテットⅢ」展覧会広報事務局】（ウインダム内）

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル

e-mail : sjnk-m-pr@windam.co.jp TEL : 03-6661-9447 FAX : 03-3664-3833

担当：新山（しんやま）、橘川（きつかわ）